



2012年1月8日

# いま起きつつあること…

『原発を終わらせる』  
を読んで

## 悔い改めの一歩 として

神学社会委員会はこれまで「原発」の問題についてまったく取り組んできませんでした。これまでに多くの人がその危険性について指摘してきた。これまでに多くの人がその危険性について指摘してきた。しかし、福島第一原子力発電所（以下、「福島原発」）の事故を検証し、現在非常に大きな問題となっている「核のゴミ問題」に端的に示されるように原発がいかに「不完全な技術」であるかなど、原発の問題性を多角的に考察しています。また原発を終わらせるための具体的な道も最終章で提案されています。

それは、誰が正しい予測をし、誰が誤った予測（あるいは虚偽の予測）をしたか、ということである」（北博「預言者」と偽預言者」、「福音と世界」2011年11月号）。

「私たちも神学社会委員会の悔い改めの一歩として「原発

についての学びを始めました。今回のかわら版では読書会で取りあげた『原発を終わらせる』（石橋克彦編、岩波新書）を紹介します。

今、福島原発周辺で激しい余震が起り、原発に破局をもたらす可能性もあります。「そうならないためには、ひたすら祈るほかない」という本書の言葉にふれ、私たちは「主よ、憐れんでください」と祈りへ導かれました。

## キリスト者として 真摯に

「私たちも科学者でも、経済学者でも、地震学者でも、まして原発の専門家でもあります。また原発を終わらせるための具体的な道も最終章で提案されています。

委員会で本書を読んだ直後第一声は「背筋が凍る思い」とした。何人かの筆者が未舗装の大惨事となつた今回の原発事故よりももつと過酷事故になつた可能性を記

され、そういうなかつたのは「偶然」であり、「運がよかつた」との指摘に田が覚めるような思いになりました。

「もし、日本社会がこのとき理性と感性と想像力を最大限に働かせていれば、運転歴30年を超える福島第一原発の全6基は運転終了したかもしれません。専門家たちはそれぞれの立場でいろいろな意見を言います。しかし、私たちはキリスト者として「今、起つて大地は汚染され、食の安全の警告を生かせなかつた」とを「痛恨の極みである」と告白されています。

「私たちも「理性と感性と想像力を最大限に働かせて」原発の問題に向き合つたためにも、『原発を終わらせる』を一読される」とをお勧めします。

## 背筋が凍る思い

「の本はこれまで原発の危険性に警鐘を鳴らし続けてきた14名が、福島第一原子力発電所（以下、「福島原発」）の事故を検証し、現在非常に大きな問題となっている「核のゴミ問題」に端的に示されるように原発がいかに「不完全な技術」であるかなど、原発の問題性を多角的に考察しています。また原発を終わらせるための具体的な道も最終章で提案されています。

委員会で本書を読んだ直後第一声は「背筋が凍る思い」とした。何人かの筆者が未舗装の大惨事となつた今回の原発事故よりももつと過酷事故になつた可能性を記

を向けなければなりません。

預言者エレミヤは偽預言者ハナシヤとの対決において、「平和を預言する者は、その言葉が成就するとき初めて、またことに主が遣わされた預言者であることが分かる」（エレミヤ28・9）と語り、南ユダが破滅に向かう中で安易に明るい未来を語る者を偽預言者として非難しました。

「もし、日本社会がこのとき理性と感性と想像力を最大限に働かせていれば、運転歴30年を超える福島第一原発の全6基は運転終了したかもしれません。専門家たちはそれぞれの立場でいろいろな意見を言います。しかし、私たちはキリスト者として「今、起つて大地は汚染され、食の安全の警告を生かせなかつた」とを「痛恨の極みである」と告白されています。

「私たちも「理性と感性と想像力を最大限に働かせて」原発の問題に向き合つたためにも、『原発を終わらせる』を一読される」とをお勧めします。